

資料6

個人・家庭向けに保健師等が行う保健指導用の参考資料
水害時の衛生管理と食中毒・感染症予防について

1 水害時の衛生管理と食中毒予防

暫定版ガイダンス「一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法」（日本環境感染学会）（平成 28 年 12 月 5 日アクセス）を参照

http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=171

2 水害時の感染症予防

水害後の泥のかき出し、片付けに関連する感染症として下記（1）～（3）に注意が必要です。

いずれの場合も作業後の手洗いを徹底し、糖尿病、透析治療、がん治療など免疫力の低下が予想される人については特に注意します。

手洗いは石けんと流水により行い、洗い流すことが基本です。断水の場合はウェットティッシュで汚れを落とした後、アルコールを含む擦り込み式の消毒薬を使用します。

（1）ケガに伴う感染症：破傷風*1、創傷感染症など

- ◇ ケガ防止のため、作業は素肌を露出しない服装で行う（長袖・長ズボン、ゴム手袋や軍手、長靴、安全靴など）
- ◇ ガラスや棘などでケガをした場合は、傷を洗い流し、消毒、カットバンで保護する
- ◇ 傷が深い、泥が入ったなどの場合は創傷感染予防のため受診する
- ◇ 作業後に口を開けにくい、飲み込みにくいなどの症状が現れた場合は受診する

（2）舞い上がったほこりやしぶきを吸い込むことに関連する感染症：レジオネラ*2

- ◇ 作業中はマスクを着用する
- ◇ 作業後に全身倦怠感、頭痛、発熱、呼吸器症状（咳や痰）が生じた場合は受診する

（3）水や土壌と皮膚が触れることに関連する感染症：レプトスピラ症*3

- ◇ 作業を行う際にゴム手袋をつけるなど、汚水との直接の接触を避ける（皮膚に傷がある場合は特に注意する）
- ◇ 汚水に触れた手で、口や目に触れないように注意する
- ◇ 作業後に発熱、悪寒、筋肉痛、結膜充血などの症状が現れた際は受診する。

*1 破傷風とは

破傷風菌が産生する毒素によって引き起こされる感染症です。破傷風菌は土壌中に広く分布します。破傷風菌が傷口から体の中に入ることによって感染（経皮感染）し、破傷風毒素を産生します。軽微な傷から感染する可能性があります。ヒトからヒトに直接感染することはありません。潜伏期間は3日～3週間（平均1～2週間）、口を開けにくい、飲み込みにくいなどの局所症状が現れ、激しい痙攣や呼吸障害が生じ死亡することもあります。抗菌薬による治療を行います。

*2 レジオネラ症とは

レジオネラ属菌による感染症です。レジオネラ属菌は自然界の土壌や淡水（川や湖）に広く生息しています。レジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染します（空気感染、飛沫感染）。ヒトからヒトに直接感染することはありません。潜伏期間は2～10日、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛などの症状に始まり、乾いた咳、痰、高熱、悪寒、胸痛が出現するなど重篤な肺炎に至り、死亡することもあります。抗菌薬による治療を行います。

*3 レプトスピラ症とは

レプトスピラ（細菌の一種）による感染症です。レプトスピラ症に感染しているネズミなどの野生動物や家畜の尿、その尿で汚染された水・土壌と直接接触することによって感染します（経皮感染）。また、その尿で汚染された水や食品を介した感染（経口感染）の報告もあります。ヒトからヒトに直接感染することはありません。潜伏期間は2～21日程度、発熱・悪寒・筋肉痛・結膜充血などの症状が現れ、重症化すると黄疸・出血傾向などがみられます。抗菌薬による治療を行います。

3 参考資料（全て平成28年12月5日アクセス）

- 1) 災害と感染症ポータル（国立感染症研究所）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/disaster/1943-disaster.html>
- 2) がれき撤去における感染予防のポイント-傷の化膿や破傷風について-（宮城県他）
http://www.tohoku-icnet.ac/shinsai/hotline_ippan.html
- 3) 疾患別情報（東京都感染症情報センター）
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/>

資料 7

ノロウイルス感染【おう吐物の処理の仕方】

患者のおう吐物の処理は、以下の手順にしたがい塩素系の消毒薬を使用して、すみやかに処理します。必要な物は、常時準備しておきましょう。

必要物品（例）

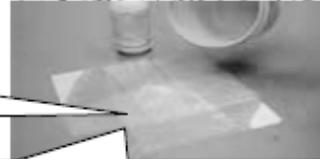
使い捨て手袋、マスク、ガウンやエプロン、ふき取るための布またはペーパータオル、ビニール袋等、次亜塩素酸ナトリウム、専用バケツ

- ① 汚染場所に処理する人以外の人が近づかないようにします。
② 処理をする人は使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用します。



カーペット等は色が変わる場合があります。

- ⑤ おう吐物が付着していた床とその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます。



次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、拭き取って10分程度たったら水拭きします。

- ③ おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で外側から内側に向けて、拭き取り面を折り込みながら静かに拭き取ります。



同一面でこすると汚染を拡げるので注意

- ⑥ 使用した着衣は廃棄が望ましいが、消毒する場合は下記の手順で行います。

- ① 付着したおう吐物を取り除く(手袋着用)。
② 熱湯に1分以上つけるか、0.02%の次亜塩素酸ナトリウムに30~60分つける。
③ 他のものと一緒に洗濯機等で洗濯する。

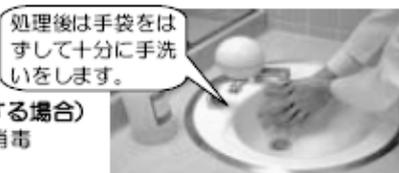


- ④ 使用した使い捨ての布やペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れ処分します。



ビニール袋に0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませる程度に入れ消毒するとよい。

- ⑦ 最後に手袋は、付着したおう吐物が飛び散らないよう、表面を包み込むように裏返してはめます。手袋は、使った布やペーパータオル等と同じように処分します。



処理後は手袋をはずして十分に手洗いをします。

☆ 塩素系消毒薬のつくり方

(次亜塩素酸ナトリウム濃度6%の商品を使用する場合)

- * おう吐物などがついた床、トイレなどは0.1%溶液で消毒
水3リットルに対し、原液50mlを入れる。
 - * ふんばやおう吐物で汚れた衣類は0.02%溶液で消毒
水3リットルに対し、原液10mlを入れる。
- ※ 目安として、ペットボトルのキャップ1杯が約5mlです。

商品名例：キッチンハイター、テキサント、ハイボライト、ビューラックス、ビュリアンP、ミルトン、ヤラックスD など(薬品の用法・用量を守って、適正に使用してください。)

*西多摩保健所の実験では、希釈した消毒薬は密閉容器に入れ、暗所で保管すれば2週間は効力が保たれます。

※ その他の留意点

- 吐物処理後は、調理や配膳などに従事しない。
- 可能ならば、吐物処理後にシャワーを浴びるのが望ましい。

【ポイント】

- おう吐物を処理した後48時間は感染の有無に注意してください。
- おう吐物の処理時とその後は、大きく窓を開けるなどして換気し、換気設備がある場合には必ず使用してください。

ノロウイルス感染【おう吐物の処理の仕方】（東京都西多摩保健所）

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/nisitama/shokuhin/noro.html>

資料 8

手洗いは食中毒・感染予防の基本です

外出後 トイレ後 吐物・ふん便処理後 調理前 食事前 は必ず手を洗いましょう

手洗い前のチェックポイント ○ 爪は短く切っていますか? ○ 時計や指輪を外していますか?

①石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



②手の甲をのばすようにこすります。



③指先・爪の間を念入りにこすります。



④指の間を洗います。



⑤親指と手のひらをねじり洗います。



⑥手首も忘れずに洗います。(①～⑥で30秒程度)



⑦十分に水で流します。(20秒程度)



ここまでを2回繰り返す。

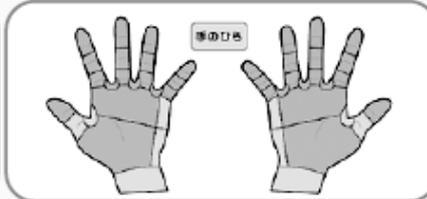
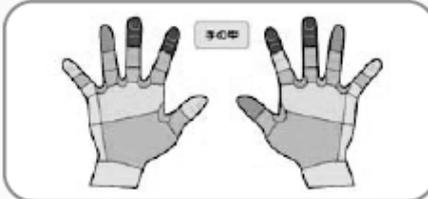
⑧ペーパータオルや清潔なタオルでよくふきます。



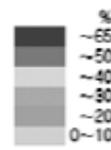
⑨必要に応じて消毒をします。

汚れが残りやすいところ

◎指先や爪の間、手のしわは特に注意して洗いましょう!!



洗い残した人の割合



(平成21～22年度に東京都多摩小平保健所が実施した1,412名の調査結果より)

東京都福祉保健局

食品衛生の窓 検索 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/>

食中毒に関する相談や
お問い合わせは
お近くの保健所へ

手洗いポスター (東京都食品衛生の窓)

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/pamphlet/poster.html>